暮らしの専門家による間取りチェック〈G type〉

私の第一印象は“都会的”なレイアウト。
考え抜かれた間取りを隅々までチェックしました！

1 帰宅後の動線（ただいま動線）

玄関から洗面へすぐに行ける動線が確保されています。
帰宅後すぐに手洗いができるため、子どもの衛生習慣を身につけやすい配置です。近年は感染対策や生活習慣の観点からも、帰宅後すぐに手洗いできる動線は住宅計画において重要なポイントとされています。

2 シューズクロークの有効活用

玄関に設置されたシューズクロークは、単なる靴の保管場所ではなく、多目的に活用できる重要な収納スペースです。

【靴の収納】

稼働棚が設置されているため、靴の高さに合わせて棚の位置を変えることができます。
ハイヒール、ブーツ、スニーカーなど、さまざまな高さの靴をスッキリ整理でき、空間を無駄なく活用できます。

【資源ごみの一時保管】

靴以外にも、資源ごみ（紙・段ボール）を一時保管できます。この活用により、以下のようなメリットが生まれます。

- 家の中に段ボールを置きっぱなしにしない
- 圧迫感を感じずに済む
- 生活空間をすっきり保つことができる

また、棚にA4サイズが入る籠を置いて、いらないチラシや書類を保管することで、家の中に書類があふれることがなくなります。ポストから持ってきたチラシなどを玄関で一度整理することで、家全体がすっきり保たれます。

3 トランクルームの活用

トランクルームは、季節用品や大型の趣味用品などを保管する重要なスペースです。生活空間に影響を与えない収納を実現できます。

【活用できるもの】

- アウトドア用品（キャンプ用具、テント等）
- スポーツ用品（スキー板、スケボード等）
- ゴルフバッグと関連用具
- 防災グッズ

【空間を上手に利用するポイント】

棚などを設置することで、奥行きのあるスペースを効率よく活用できます。縦方向の収納を心がけることで、限られたスペースに多くの物を収納でき、生活空間に圧迫感を与えることなく、快適な住環境を保つことができます。

4 リビング収納

リビングには物入れが設けられています。

書類や文房具	マスクやティッシュ	日用品のストック

などを一ヶ所にまとめて収納できます。こうした収納があることで、余計な家具を増やす必要がなく、リビング空間を広くすっきり使うことができます。

5 家事動線（洗濯動線）

洗面からバルコニーへの動線が良い配置となっています。

洗う → 干す → 取り込む → 収納する

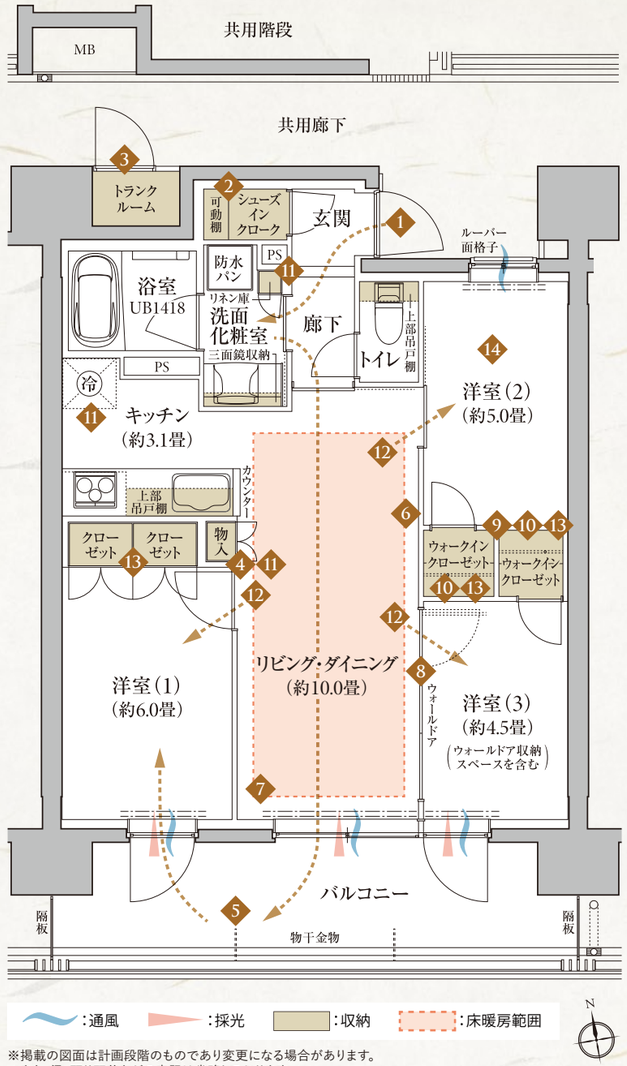
という洗濯の一連の流れが短くなり、家事の負担を軽減できます。バルコニーに面している洋室へそのまま収納できるため、効率的な家事動線が実現しています。

6 フォーカルポイント（視線のポイント）

廊下からリビングへ入った際、正面の壁が自然と視線に入る位置となっています。

- 絵や写真　• 飾り棚

などを配置することで、空間の印象が引き立ちます。インテリアのアクセントとして、とても効果的な位置です。



※掲載の図面は計画段階のものであり変更になる場合があります。
また、梁・下り天井などの表記は省略しております。

7 視線コントロール

窓付近のスペースに観葉植物などを配置することで、空間の印象が柔らかく整います。また視線が植物へ向くことで、生活スペースの雑多な部分が目立ちにくくなるという視線コントロールの効果も期待できます。

8 子どもスペース

洋室（3）は子どもの遊びスペースとして活用できます。ウォールドアを開けることでリビングと一体で使うことができ、小さいうちは遊び場として、成長後は個室として、ライフステージに応じた使い方が可能です。

9 子ども収納

洋室のクローゼットを子ども専用収納として活用することで、以下のような効果が生まれます。

- 自分で洋服を出す習慣が身につく
- 自分で片付ける習慣が身につく

収納場所を明確にすることで、子どもの自立にもつながります。

10 おもちゃ収納

クローゼットの棚の上部は、以下のような使い方に向いています。

- 今使っていないおもちゃの保管

おもちゃが散らかる原因の多くは、使用していないものが混ざっていることです。保管場所を分けることで、部屋が散らかりにくくなり、片付けも格段に楽になります。

11 買い物後の収納の工夫

買い物後の収納をスムーズにするために、エコバッグを用途別に分けておく方法が有効です。

1. 洗面用（日用品）
2. リビング収納用
   （ティッシュ・マスク・ストック用品）
3. キッチン用（食品・冷蔵庫に入れるもの）

帰宅後、動線に沿ってそのまま収納することで、床に物を置く時間が減り、家の中が散らかりにくくなります。

12 リビング・ダイニングと3部屋がつながるレイアウト

リビング・ダイニングと洋室（1）～（3）がそれぞれつながっています。

【つながるメリット】

- 北側の洋室（3）に廊下に出なくても行けるので、洋服選びなど気軽に出入りができます。
- それぞれの洋室には必ずリビング・ダイニングを通るため、家族の一体感を大事にできます。
- 子どもが小さいときは洋室（3）、成長したら洋室（2）と移動しても、心理的距離感が近くなります。

13 クローゼットの活用方法

洋室（2）と洋室（3）のクローゼット（奥行きが深いタイプ）

奥行きのあるクローゼットは、季節衣類の管理に最適です。

手前→今シーズンの服　奥→シーズンオフの服

というように分けることで、衣替えがとても簡単になります。手前と奥のケースを入れ替えるだけで完了し、わざわざ奥から季節衣類を取り出す手間が省けます。また奥のスペースには、扇風機や加湿器などの季節家電を収納することも可能です。季節ものの保管場所に困ることがなくなります。

洋室（1）のクローゼット（一般的な奥行きのタイプ）

洋室（1）のクローゼットは、一般的な奥行きのサイズです。こちらはハンガー収納として活用するのが最適です。

【活用のポイント】

- ハンガーに吊るして、毎日着る洋服や上着を保管。
- ハンガーの下に空くスペースに、小さめの衣装ケースを置いて、下着や靴下などを整理。
- 季節ものの小物やベルト、スカーフなどはクローゼットの側面にフックを取り付けると、全身コーディネートに必要なものが一ヶ所に揃う。

このように、奥行きの深さや浅さという特性に応じて、それぞれのクローゼットを活かすことで、衣類の管理がぐっと楽になります。

14 プライバシーの確保と防犯対策

洋室（2）は共用廊下に面しながらも、少し奥まった位置に設計されているため、通行人の視線が届きにくい部屋です。さらに、窓には角度調整が可能な「ルーバー面格子」を備えており、プライバシーの確保や防犯対策としての役割を果たしながら、心地よい風を室内に取り込むことができます。

間取りチェックの達人！

鈴木 薫 氏

〈プロフィール〉
2007年に不動産会社を設立。
宅地建物取引士・インテリアコーディネーター・FP・保育士。

「家は買って終わりではなく、暮らしが本番」という考えのもと、不動産仲介を軸に活動。整理収納講師として18年以上、講座を開催。住まい探しだけでなく、収納計画・インテリア・家計まで、暮らし全体をサポートしている。

KAORU SUZUKI